

農林水産大臣賞受賞

甲府の玄関口から地域農業活性化！ 5つのコンセプトによる農産物加工直売活動

受賞者 いっばんしゃだんほうじん 一般社団法人 なかみちのうさぶつか こうちよくばいくみあい 中道農産物加工直売組合

やまなしけんこうふし
(山梨県甲府市)

■ 地域の沿革と概要

甲府市は、山梨県の県都で甲府盆地のほぼ中央に位置し、五次にわたる町村合併を経て、現在の市域を形成するに至っており、当該地のある旧中道町（以下「中道地区」という。）は平成18年に甲府市に編入されている。市街は、平坦であるが、市の最北の山岳地域には2,000mを超える峰々が東西に連なり、北に高く南に低く傾斜している。旧中道町は甲府盆地及び市の南東端に位置する南北に縦長の地域であり、北部は笛吹川中流左岸の河岸低地で市街を形成しており、南部は御坂山地から続く丘陵地帯である。

第1図 位置図



■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

中道地区には笛吹川沿いの国道141号線、富士河口湖町へ繋がる国道358号線が交わる地域であるとともに、中央自動車道甲府南インターチェンジがあるため利便性が良い地区である。

気象条件は寒暖差が大きく、夏は蒸し暑く、冬は寒さが厳しい盆地特有の気候である。また、降水量は比較的少ない一方で日照時間は多い特徴を有している。

中道地区の笛吹川一帯に広がる

第1表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	旧市町村単位の集団等	
地区の性格	機能的な集団等	
農家率 (内訳)		2.5%
	総世帯数	85,057戸
	総農家数	2,088戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家	480戸
	1種兼業農家	171戸
	2種兼業農家	464戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	21,247ha
	耕地面積	1,220ha
	田	420ha
	畑	799ha
	耕地率	5.7%
	農家一戸当たり耕地面積	0.6ha

注：市全体の数値

専業別農家数は販売農家の内数のため、総農家数と一致しない

平坦な農地では、古くから水稻を主に栽培してきているが、県営農地開発事業等が完了し、果樹・野菜団地としての利用がなされている。

また、丘陵地域では養蚕が盛んであったが衰退し、現在は果樹・野菜への転換が進んでいる。また、肉牛の生産や県内有数の養豚団地が形成されている。

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

中道地区は、笛吹川一帯に広がる平坦な農地で古くから水稻を主に栽培してきているが、県営農地開発事業等完了後は、果樹・野菜団地として利用されている。また、丘陵地域では養蚕が盛んであったが昭和 55 年頃より、果樹・野菜への転換が進み県内有数の複合経営の産地が形成されている。



写真 1 農産物直売所外観

この農業が盛んな地域で認定農業者である女性数名が、「自分で作ったものを直接、消費者に買ってみたい」との考えから、平成 12 年に町の玄関口にある休業中の町営施設の敷地で軽トラックの荷台を利用した小さな朝市を開催したことがこの活動のきっかけである。女性達の熱意が地域の農家や行政に伝わり、平成 14 年に中道地区初の直売所がオープンした。その後、加工設備も導入し取組が本格化・活動する中で、施設の指定管理者制度の導入をきっかけに法人化を進めることとなった。法人化への道のりは容易なものではなかったが、法人化のメリットや出資金について出荷者である農家の理解を得ること、しっかりした組織の体制や出荷基準や販売価格を設定することに苦労を重ね、平成 17 年に「有限責任中間法人中道農産物加工直売組合」の設立に至っている。

女性達数人で始めた小さな朝市が、現在は「一般社団法人中道農産物加工直売組合」として 200 人を超える組合員による活動に発展し、地域農産物や加工品の販売を通じた地産地消や特産品の PR など、市には欠かせない組織として活動を行っている。

(2) むらづくりの推進体制

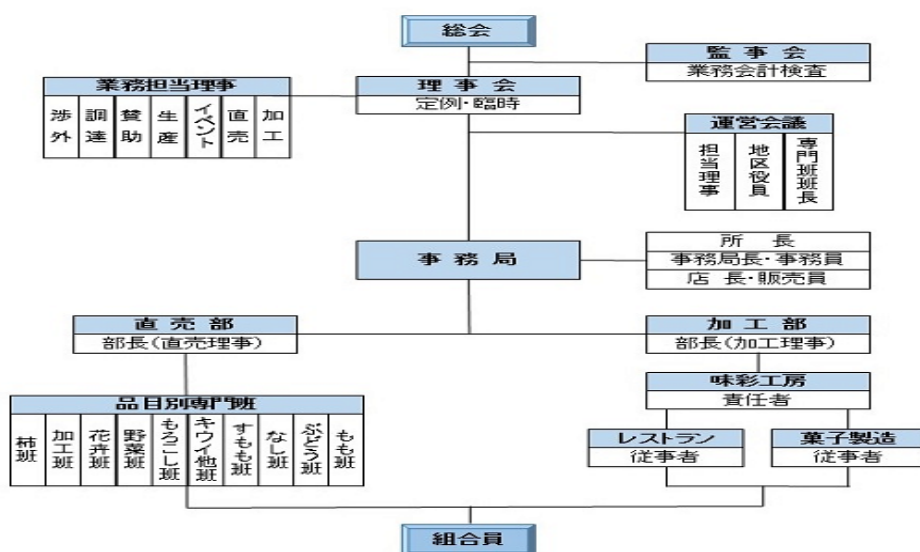
ア 当該集団等の組織体制、構成員の状況

一般社団法人中道農産物加工直売組合は、中道地区を中心に甲府市に在住する者約 200 名を社員とし、代表理事 1 名、副理事 2 名、理事 6 名以上、監事 3 名以上の役員を原則社員のなかから社員総会において選出

している。

また、各地区の社員への連絡調整を行う地区役員を設けるとともに、農産物等直売部及び農産物加工部の2つの部会を設け、各部の正副部長が統括するとともに、農産物等直売部には、ぶどう班、もも班、すもも班、なし班、キウイ他班、もろこし班、野菜班、花卉班、柿班、加工班の10班を設け、各班の正副班長が統括している。運営にあたっては、地区役員、部役員、班役員で構成する運営委員会で協議し進めている。なお、直売所の運営は、所長が、事務局長、事務局員、店長、店員を統括し実施している。

第2図 むらづくり推進体制図



イ 当該集団等と連携してむらづくりを行う他の組織、団体及び行政との関係

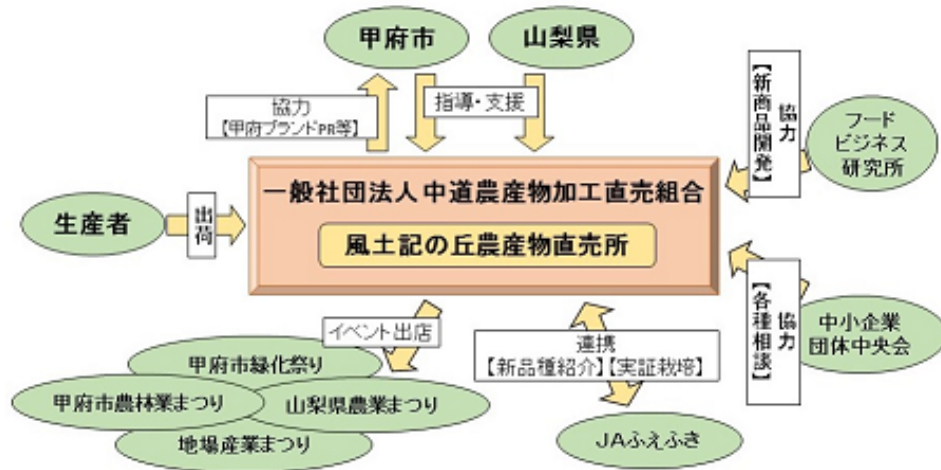
組合では地域特産品のPRに積極的に取り組んでおり、山梨県農業まつり、甲府市農林業まつりなどの行政機関主催又は後援のイベントに積極的に出展し、当該地区及び甲府市の特産品のPRを努めている。

また、甲府市では市の資源や技術、「甲府らしさ」といった個性を活かした特産品や加工品などの優れた商品を「甲府ブランド」として認定し、「甲府之証(こうふのあかし)」認証マークを与え、甲府の良きモノとして日本中、世界中に発信していくという取り組みを平成25年度より実施しており、甲府市は、当該組合の活動コンセプトや甲府市最大の直売所を運営していることから、甲府市が認証した「甲府之証」マークのある甲府ブランド品のPRを組合に依頼しており、組合は市の主力となる宣伝塔として活躍している。

また、組合員の平均年齢が70代となり、年々組合員は増加するものの、高齢で脱会する者も増加しており、生産者の高齢化が課題となっている。甲府市でも同様の課題を抱えており、市では新規就農者の講演会や交流会を開催している。組合では会場を提供するとともに、講演会に参加す

るだけでなく交流会で地域食材を使用した料理を提供することで、地域農産物を料理という形で味を含め理解してもらい地域での就農を導くよう取り組んでおり、甲府市への新規就農者の増加の一翼を担っている。

第3図 むらづくり連携図



■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

女性数人で開催した朝市をきっかけに、発展し組織化された「中道農産物加工直売組合」が地域の中心となり、地域農産物の販売、イベントや組合HP等を通じての地域農産物のPR活動や6次産業化の推進により、閑散としていた甲府の玄関口に地域住民だけでなく県内外から多くの消費者が訪れるようになり、地域の活性化や農村女性の活躍の場づくりに繋がっている。

2. 農業生産面における特徴

(1) 農産物の直売等について

組合は直売部と加工部で構成されており、直売部においては、当該地域特産のスイートコーン「きみひめ」、なし「幸水」「豊水」、桃「なつっこ」や、ちぢみほうれんそう、甲府市特産の「なす」「きゅうり」「いちご」などを販売しており、国道沿いで中央自動車道甲府南 IC 出口に位置する地の利を生かし、地域特産の



写真3 農産物直売コーナー

農産物を積極的にPRするとともに、消費者の求める生産物になるような販売に取り組むことで、甲府市内で一番の売上を誇る直売所となっている。生産者は年間を通じて平均150万円程売り上げ、中には800万円程度売り上げる生産者もいる。生産者は直売所と農協出荷という複数の販路を確保

でき経営安定につながっている一方、直売所向けのみの生産者も増加したことにより荒廃農地の発生防止につながっている。

生産面では、技術向上を目的として生産研究会を設け栽培講習会を実施しており、消費者が求める品質のものを販売できるよう生産技術の底上げを図るとともに、POS システムを活用し販売実績を分析することにより消費者が求める品目を検討し、計画栽培及び計画出荷の研究を行っている。また、山わさび、パパイヤなどの新たな品目について実証栽培、減化学肥料・減農薬栽培による安全な農産物の提供を進めるとともに、ポジティブリスト制に基づき、農産物の栽培経過と農薬の使用履歴等の記録を指導徹底し、提出を義務づけるなど、常に新しい一歩踏み出す活動をしている。

(2) 農産物の加工等について

加工部は、地域の特産スイートコーンの品種「味来」の「味」と野菜の「菜」から命名した「味菜工房」という愛称で、「昔から伝わる郷土料理を、若い母親に伝えていきたい」という思いを持って活動している。

「地元の農産物」「手作り・無添加」にこだわり、部員たちがアイデアを出し合いながら商品開発を進めており、特産の「きみひめ」が入った皮で包んだ「もろこし味噌まんじゅう」などの菓子類、地域で採れた桃、キウイフルーツなどの果実を使用したジャム、旬の農産物をたっぷり使用した総菜類の加工を行う他、加工施設内にあるレストラン「ファームキッチン味菜」では、「季節の野菜カレー」などの旬の地元農産物等を使った食事を提供している。また、レストランで使用している野菜を表示することで隣接する直売コーナーで材料を購入してもらい、家庭でも楽しんでもらえるよう加工と直売を連携する工夫を行い地産地消に繋げている。



写真4 加工施設内レストラン

(3) 後継者の育成について

平成 22 年から当組合の 9 名の組合員が山梨県立農業大学校の卒業生などの新規就農希望者を毎年 1 名受け入れ 1 年間の研修を行っている。これらの研修生は研修の終わった翌年に当該地域に就農し組合員として出荷するまでに至っている。このような研修生はナス、スイートコーン、モモ、スモモなどの地域の主力品目を栽培しており、組合はもとより地域での課題である農業の担い手の確保につながっている。

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 地域内外住民との交流について

ホームページの開設に加え、SNS を活用し、週 4 回ツイッターで情報を発信し旬の情報を提供するほか、週 2 回はブログの更新をしており、この情報を見て多くのお客さんが直売所を訪れている。

また、組合では地域で栽培された特産の農作物を広く甲府市民はもとより地域外の消費者にも知ってもらい、美味しい旬の農産物を食べてもらいたいとの思いで「もろこしフェア」や「フルーツ祭り」等のイベントを開催している。イベントで同時に行われる果物や野菜の収穫体験も好評で、消費者への PR や販売促進だけでなく、消費者の反応の対面で感じることで生産者の生産意欲の増大に寄与している。



写真 5 収穫体験